

第18回障害者問題全国交流会 愛媛 投句一覧

最優秀賞

虫の音に足らざるを知り足るを知る

優秀賞

それぞれの違いを認む秋の七草

佳作

天の川やせたる母の眠る部屋

以下全俳句掲載

良きことを聞いた帰路に浮かぶ月

波高し秋風送る三津港

学びあい気づきの深さ秋高し

再会でハグまでするの？濁り酒

名月やたのもしきかな同友会

秋深し子規ここそこに城下町

味酒町モアのランチで秋惜しむ

赤とんぼ坊ちゃん列車の上を舞う

朝ランの足どり軽く秋の風

流れ星若者たちに夢つなぐ

路面電車ひびく音にも秋深し

この想いつたわるのかな居待日

神無月松山の夜を千鳥足

ゆっくりりと市電の窓から秋の風

カタゴトと窓あく市電で温泉に行く

君と乗る路面電車に赤トンボ

働ける喜び交わす濁り酒

君と僕違いを認めて月見酒

松山に秋山家あり秋の風

鶴来る一つ変われば合理的

秋の暮かまって欲しいだけなのに

月見酒私の力は無限大

経営者テーブル囲んで流れ星

人生を大きく楽しむ秋の七草

元氣・勇氣と秋の空

仲間と逢える全国大会身に入る

紅葉の山の各色ハーモニー

十五夜はすすきもダンゴも主役です

コスモスは赤青紫咲きほこる

秋澄む幸せのカギ自立心

にぎり酒なかまのことば身につまる

語る人うなずく人や萩の花

遠き友迎へて楽し秋の宴

共育ちまず己から学ぶ秋

やってみよまずは実践気付く秋

自立プライド向上心ここにありと気づく秋

共に育つをじっくり考えた秋の松山

ぼっちゃんに子規にとあやかりたい松山で

なじみの社長とかわした秋の水

障全交今年も多き学びかな

学びつつ背筋が伸びる気づきあり

全国の仲間に出会っていやされる

目と目で語る秋の朝

共に育って爽やかに

我人生命の限り楽しみたい

教育をいかに楽しく成さざるか

正論を唱えるだけが正しいか

伊予の里鳴く雁の命人と同じ

秋の夜に誓った学びの即実践

天高く背筋が伸びる山色気

人生は何を学びみかん食べ

こころざし仲間議論秋愛媛

秋の日にえひめで集う学びの場

理念あり経営ぶれず豊年に

良くやった障全交北の秋

シナリオに突然挨拶虫の声

感無量只々感謝月見酒

あちこちに歩き続けて秋遍路

やってみるあわせてみると生まれる仕事

あれがないこれがないという前にうごいてみる

橙色食べてる顔があたたかい

しなやかにしぶとく学ぶ秋の日に

受け入れて寄り添うだけの秋の空

支えられほやけんがんばる秋の風

松山へ全国からの秋の夜

六百余名の熱き秋

松山で昼夜学ぶ秋の暮

語らいて学び深まる子規の秋

人の世の親鴨なれる同友会

三日月之陽をあて思ひ我すすめ

渡り鳥次は我が家のヘルパーか

燕帰る別れし媛い愛に行く

秋高しきかしきかされ共創り

秋の夜に覚悟誓いし一商涯

無花果の網にかかりし小鳥かな

朝露に濡れながら採る無花果を

松山のお城の上は秋の雲

生き様が心にしみる秋の夜

秋長くさみしくなるよ夕日かな

初四国路面電車と秋の空

腹減った早く飲みたしひやおろし

稲刈を今年も知的仲間と無事終えた

ああ忘れたこれも忘れた冬支度

稲妻が仲間の足をとめまくる

秋深し愛媛の縁もより深し

上弦の路面輝して遍路行

人集い秋の学びに子規笑顔

飛行機をおりたらみかん秋の朝

上弦の月が隠れる伊予の峰

ぜひ一句筆がすすまぬ秋の夜

ふつふつとたぎる想いと秋の月

山の縁色づき始めて暮れる秋

爽やかにさあ思いやりとおせっかい

秋の昼問題という文字消える

共にゆえすべてが変わる青みかん

秋深し障害者熱い声

おだやかに熱い思いみかん色

伊予の国全国集う秋の夜

障害を越えてゆく秋の空

障害を越えて雇用す秋の空

ジュピターの歌復興を思う秋高し

松山のじゃこ天食らう月見酒

秋の夜に食文化に触れ小富士飲む

がんばろう心の中の初紅葉

ぼっちゃんの湯でおよぐ流れ星

討論中蜜柑の甘さホツとする

秋晴れに集う思いは愛になる

愛がある秋に限らずまたこよう

秋の日に新たな出発ちかう時

秋おそしおち葉ちらちらわが前に

小鳥来る幸せ運んで小鳥来る

渡り鳥蛇穴に入る秋の蠅

秋の日に社員育つ障害者雇用

秋晴れと共に働く喜びを

実る秋夢叶うよ同友会

秋晴れに熱き仲間の集ひけり

秋の雲ぼっちゃん電車走る街

愛媛産まじめな蜜柑山積み

夜行バス明日も仕事だ秋むなし

愛媛にてふみだす一步秋の空

夢を追い共に育とう秋の夜

幸せを共に生きる秋高し

すれ違うチャンスつかむ秋の朝

指針書を肩に背負って冬支度

障害の壁を払って秋の空

松山の熱い意見で秋祭り

坂の上熱い魂秋祭

吾輩の熱い気持ちと月見酒

秋山の策より熱い意見あり

子規の里熱い議論で月見酒

秋の昼鍋焼きうどんをツルツルと

友達を待つ間が長い冬の朝

大阪へ帰り立ち寄る柚子うどん

沢山の志を束ねて雁の列

同友会二日続きで二日酔い

秋深し松山まで来て三日酔い

冷やかな嫁を横目で松山へ

合婚に紅葉にまさるほほの色



新大豆虫も肥満の丹波黒

新大豆虫も知ってる黒の味

語らいも学でも熱く道後の湯

宴終え鋸田卓の実社の私かな

円卓に名菓の食ベカス秋の夜

きなこ棒ちぎり草もちわせみかん

愛媛産秋の実りに愛しみる

夢語る松山の秋障全交

障全交みかんを前に語る夜

人だから共に育つよ秋の空

以上全一五二句